事業番号　150

平成２４年行政事業レビューシート　（外務省）

事業名	国連ボランティア計画拠出金（日本UNV協力事業）（任意拠出）	担当部局庁	国際協力局	作成責任者
事業開始・終了（予定）年度	平成６年度開始	担当課室	地球規模課題総括課	課長　飯田　慎一
会計区分	一般会計	施策名	Ⅷ－３　国連機関等を通じた地球規模の諸問題にかかる国際貢献	
根拠法令（具体的な条項も記載）	外務省設置法第4条第3項	関係する計画、通知等	第25回国連総会決議第2659（XXV）	

事業の目的（目指す姿を簡潔に。3行程度以内）

若い世代が自発的に途上国の発展に貢献することを目的として設立されたUNVの活動を支援するとともに，日本人に国連ボランティアとして途上国の国連機関事務所等で勤務する機会を提供することを目的とする。

事業概要（5行程度以内。別添可）

（1）邦人派遣プロジェクト：途上国において，その国の政府又は国際機関等が実施する各種の開発・人道支援活動に対し，日本人の国連ボランティアを派遣。
（2）地域別開発・人道援助等プロジェクト：途上国において，UNVが（日本を含む）世界各国からの国連ボランティアを動員し，主体的に取り組む開発・人道支援等のプロジェクト。
（上記のいずれにおいても、ボランティア派遣のための経費は現地生活費、住居費、渡航費等のみ。）

実施方法　□直接実施　□委託・請負　□補助　□負担　□交付　□貸付　■その他

予算額・執行額（単位：百万円）

		21年度	22年度	23年度	24年度	25年度要求
予算の状況	当初予算	105	67	57	47	39
	補正予算	39	38	－	－	
	繰越し等	－	－	－	－	
	計	146	105	57	47	
執行額		146	105	57		
執行率（%）		100%	100%	100%		

成果目標及び成果実績（アウトカム）

成果指標		単位	21年度	22年度	23年度	目標値（　年度）
ボランティアリズムを世界に広く普及することを目的としていることから，UNVを通じてボランティアを派遣した国の数（対195か国の割合）	成果実績	国	158	158	確認中	―
	達成度	%	81	81	―	

活動指標及び活動実績（アウトプット）

活動指標		単位	21年度	22年度	23年度	24年度活動見込
本件拠出金による邦人ボランティア派遣数。	活動実績（当初見込み）	人	10	15（　）	18（　）	―（　）

単位当たりコスト　54,571（ドル／人）（注：見積ベースで算出）

算出根拠
・単位当たりコスト＝１年間の邦人派遣経費の総計／派遣件数
・地域別プロジェクトの規模はそれぞれ異なることから，単位当たりコストの算出は困難。

平成24・25年度予算内訳（単位：百万円）

費　目	24年度当初予算	25年度要求	主な増減理由
国際連合ボランティア計画拠出金（日本UNV協力事業）	47	39	任意拠出金のうち優先事項を踏まえて減
計	47	39	

事業所管部局による点検

	評価	項目	評価に関する説明
目的・予算の状況	○	広く国民のニーズがあり、優先度が高い事業であるか。	自らの技能を生かして国連機関での経験を積む希望を有する者は多く，将来の国際機関の邦人職員増強にもまた，そのための派遣費用等を民間等に委ねることは困難。
	○	国が実施すべき事業であるか。地方自治体、民間等に委ねるべき事業となっていないか。	
	―	不用率が大きい場合は、その理由を把握しているか。	
資金の流れ、費目・使途	―	支出先の選定は妥当か。競争性が確保されているか。	国連ボランティアにかかる経費は，現地生活費，渡航費，住居費等のみであり，国際社会において費用対効果が高いものであると評価されており，また，UNVから本件拠出に関する財務報告を定期的に受けている。
	○	単位あたりコストの削減に努めているか。その水準は妥当か。	
	―	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	―	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	
活動実績、成果実績	○	他の手段と比較して実効性の高い手段となっているか。	国連機関等からの要望に基づき，UNVの活動目標とも整合した，開発・人道支援分野のボランティアを派遣しており，我が国の支援重点分野とも合致している。 類似事業については，平和構築人材育成事業は，平和構築の現場で活躍できる日本人文民専門家の育成・派遣が目的であり、本件事業とは趣旨・目的が異なるものである。また，青年海外協力隊（JOCV）経験者のUNV派遣は，JICAにおいてJOCV経験者の国際協力の専門家としての活躍を支援するものであり，趣旨・目的が異なるものである。これらを統合して実施することは困難。
	○	適切な成果目標を立て、その達成度は着実に向上しているか。	
	○	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	
	○	類似の事業があるか。その場合、他部局・他府省等と適切な役割分担となっているか。 ※類似事業名とその所管部局・府省名：1:平和構築人材育成事業（国際平和協力室），2:青年海外協力隊経験者の派遣（JICA）	
	―	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	
点検結果	UNVとの間で，迅速な拠出金の執行・残余金の有効活用のため，運用の改善措置を2009年に実施。なお，日本の拠出金額はピーク時の3分の1以下に落ち込んでおり，それに伴って邦人ボランティアの新規派遣数もピーク時より減少し，邦人ボランティアの派遣によって国際社会における我が国のプレゼンスを示す機会も損なわれているため，これ以上の削減は望ましくない。なお，事業実施については引き続き適切に把握するとともに，効果的かつ効率的なものとなるよう注視していく。		

予算監視・効率化チームの所見

抜本的改善	拠出額減額

上記の予算監視・効率化チームの所見を踏まえた改善点（概算要求における反映状況等）

縮減	任意拠出金のうち優先事項を踏まえて減

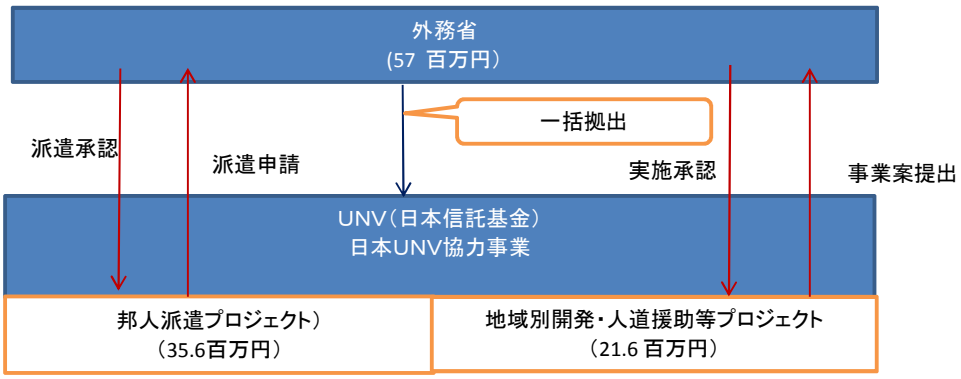
補記 （過去に事業仕分け・提言型政策仕分け・公開プロセス等の対象となっている場合はその結果も記載）

●事業仕分け（第1弾、事業番号2-50、事業名 国際機関等への任意拠出金）
【結果】見直しを行う（ただし、右「結果」及び下記「コメント」は28の国際機関等への任意拠出金全体を対象としたもの）
【コメント】第2WG としては、更なる見直しを求めたい。重複の排除及び民間実施等の観点から、見直しを行っていただきたい。また、可能なものは国に返　還することも行っていただきたい。なお、見直しの観点にあてはまらない拠出金については、見直しを行わないことにも留意して、新政権の下で具体的に精査を行う必要がある。また、外交の目的は国益たることを前提として、効果や検証の仕組みをきちんと作るべきであり、体験談や印象による正当化では国費を投入する根拠にはならないという点も考慮して、検証・改善していただきたい。最後に、いつまでこの拠出金を出し続けるかについても、戦略が見えていないことから、新政権の下でしっかりと議論を求めたい。

関連する過去のレビューシートの事業番号

平成22年行政事業レビュー	115	平成23年行政事業レビュー	113

個別事業名：

資金の流れ （資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：百万円）	※平成23年度実績を記入 

個別事業名：

費目・使途
（「資金の流れ」においてブロックごとに最大の金額が支出されている者について記載する。費目と使途の双方で実情が分かるように記載）

A.

費 目	使 途	金 額（百万円）
拠出金	邦人派遣プロジェクト	35.6
	地域別開発・人道援助等プロジェクト	21.5
計		57.1

E.

費 目	使 途	金 額（百万円）
計		0

B.

費 目	使 途	金 額（百万円）
計		0

F.

費 目	使 途	金 額（百万円）
計		0

C.

費 目	使 途	金 額（百万円）
計		0

G.

費 目	使 途	金 額（百万円）
計		0

D.

費 目	使 途	金 額（百万円）
計		0

H.

費 目	使 途	金 額（百万円）
計		0

個別事業名：

支出先上位10者リスト

A.

	支 出 先	業 務 概 要	支 出 額 （百万円）	入札者数	落札率
1	国際連合ボランティア計画	国連ボランティア派遣	57		
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					

B.

	支 出 先	業 務 概 要	支 出 額 （百万円）	入札者数	落札率
1					
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					